

“ITS：産官学連携の試み”

## 開会の挨拶

坂内正夫（東京大学生産技術研究所 所長）

生産技術研究所の所長をしております坂内でございます。きょうは、年度末の押し詰まった中、われわれの学術講演会にお集まりいただきましてどうもありがとうございます。

生産技術研究所は、大学の中の工学の研究をしているわけですが、特に社会との連携を非常に大事にしたスタンスをとっております。そういう視点から学術講演会というものを開かせていただいております。これは通常の研究発表よりも少し広い立場、あるいはオープンな議論をさせていただくということで、今回は「ITS」をテーマに取り上げさせていただきました。

ITSは、ここに来ていただいている方々にはおなじみのことかもしれませんが、道路と情報処理と車、これらを結び付けて、21世紀に向けての安全、環境、渋滞、あるいは快適性、そういったものを実現していこう、そういうような大きなターゲットでございます。

最近驚いたことに新聞とか雑誌、あるいはテレビでも、政府広報として全ページITSというような広報が行われている。いわく、「21世紀を拓く」あるいは「緊急経済対策の柱である」、そういうようなことでございます。

言うまでもなく今、わが国、あるいは世界も含めてグロ

ーバル化の中で産業構造、あるいは生活・社会の構造の变革を迫られている。私自身の研究分野はマルチメディア、情報通信でございます。その面から大きな期待が寄せられている分野です。その中で議論されることは、ターゲットとしては多くの可能性はあるか、価値感の面、倫理面、文化面、社会論的側面から「はたしてやっていいのか」ということが多い訳です。つまり、はっきりみんなが、社会が迷いなく邁進できるようなターゲットというのはなかなかないわけでございます。しかし、そのなかでITSというのは、未来に向けた社会を変えるシステムでありながら、現在解決しなければいけない問題を直接ターゲットにしているという意味では、まさに「そうなんです。やっていいんです」、こういうようなターゲットだと思っております。

そういう意味できょう、大学の関連のそれぞれの分野、産業界の方、それから欧米の方、そういったいろんな立場の方のご議論・ご意見をいただいて、ITSがより前に進めるような一助になればと思っております。

天気もよく、桜もちらほら咲いておりますけれども、この部屋の中で有意義な時間を過ごしていただきたいと思っております。